

**専攻科看護学専攻 後期**  
**専門基礎強化科目／専門性強化科目**

1. 心理検査法
2. 教育心理学
3. 看護ケアに生かす情報通信技術
4. チームケア論
5. 臨地実践研修
6. 看護実践研究

科目名: 心理検査法				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門基礎強化科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心理臨床の実務経験に基づき、心理臨床の実践に必要な心理検査の概要について、体験的に学ぶ授業展開を行っている。			
授業科目の概要:					キーワード	
心理検査の基礎を学び、人間の多様な心理を客観的に根拠をもって理解するための技術の基礎を習得し、自らを客観的に捉える力を養う。また各種心理検査の概要と実施手順および結果の解釈方法について、体験的に学ぶ。					知能検査、発達検査、脳機能検査、性格検査	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力			心理検査の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。			
E 自己管理能力			自己を客観的に見つめ理解し、自らを律することができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①心理検査実施時の注意事項、倫理規定および報告書の書き方。				心理・福祉における倫理規定を調べる。		30
②知能検査1:ピネー式知能検査				ピネー式知能検査についてまとめる。		60
③知能検査2:ウェクスラー式知能検査				ウェクスラー式知能検査についてまとめる。		60
④知能検査3:その他の知能検査				知能検査について復習する。		60
⑤性格検査1:質問紙法検査				質問紙法性格検査についてまとめる。		60
⑥性格検査2:投影法検査				投影法性格検査についてまとめる。		60
⑦性格検査3:作業検査法検査				作業検査法性格検査についてまとめる。		60
⑧知能検査と性格検査のまとめ				レポートをまとめる。		60
⑨乳幼児の発達に関する検査				発達検査についてまとめる。		60
⑩行動・社会性に関する検査および親子関係に関する検査				行動・社会性に関する検査についてまとめる。		60
⑪言語発達に関する検査				失語症検査についてまとめる。		60
⑫知覚・感覚に関する検査				知覚に関する検査についてまとめる。		60
⑬記憶に関する検査				記憶検査についてまとめる。		60
⑭高次脳機能検査				高次脳機能検査についてまとめる。		60
⑮全体のまとめ				総復習をする。		120
使用テキスト: テキストなし。必要な資料等は講義時に配布する。				その他参考文献など: 松原達哉(編)心理テスト法入門第4版—基礎知識と技法習得のために—[日本文化科学社]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理・福祉の領域で用いられている各種心理検査について学び、体験しながら、心理アセスメントの基礎を学びます。体験学習によるアクティブラーニングで学びます。						

看護学専攻1.2

科目名: 教育心理学			担当教員氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	後期	専門基礎強化科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: ールカウンセラーの実務経験に基づき、教育現場における心理的支援の基礎について講義を展開して									
授業科目の概要:					キーワード				
心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学び、生涯学習し続けることを支援する指導法を修得する。					・学習、発達、教授法、教育評価、合理的配慮				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標		5. 6. 7. 9.				
A 知識・理解力			教育の心理学的基礎の知識を習得する						
B 専門的技術			心理的発達をふまえた指導法を組み立てられる						
F チームワーク・リーダーシップ			自他の意見を尊重しながら、チームワーク・リーダーシップを発揮できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方向型授業を行います。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 主体的に学習できるように、学習到達度について毎回フィードバックします。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①「クエスト型授業」の進め方、および教育心理学の領域について					教育心理学の領域についてまとめる	60			
②社会性の発達: エリクソンのライフサイクル論					クエスト1: エリクソンのライフサイクル論	120			
③認知の発達: ピアジェの発生的認識論					クエスト2: ピアジェの発生的認識論	120			
④学習理論Ⅰ: 条件づけ理論					クエスト3: 条件づけ理論	120			
⑤学習理論Ⅱ: 社会的学習理論					クエスト4: 社会的学習理論	120			
⑥知能と知能検査					クエスト5: 知能の概念と知能検査	120			
⑦主体的学習を支える動機づけの理論					クエスト6: 動機づけ理論	120			
⑧教育評価の考え方					クエスト7: 教育評価	120			
⑨学習の支援者としての教師の役割					クエスト8: 教師の役割	120			
⑩授業のデザインの基本					クエスト9: 授業デザイン	120			
⑪主体的学びを促進する教授法					クエスト10: 教授法	120			
⑫クラスマネジメントと配慮を要する学習者への支援					クエスト11: 合理的配慮	120			
⑬【演習】指導案の作成					クエスト12: 指導案の作成法	120			
⑭【演習】ミニ模擬授業Ⅰ: 学校教育における授業の実践					ラスボスA: 学校教育における授業	120			
⑮【演習】ミニ模擬授業Ⅱ: 生涯学習における講座の実践					ラスボスB: 生涯学習講座	120			
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な参考資料は、図書館等で自ら収集してください。					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「主体的・対話的で深い学び」を実践的に修得するために、クエスト型授業によるアクティブラーニングで学びます。									

看護学専攻シラバス1\_5

科目名： 看護ケアに生かす情報通信技術				担当教員 氏名： 松本 三千人					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門基礎強化科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：									
授業科目の概要：					キーワード				
看護の現場で求められる安全性・確実性に対して効率性・機能性等の工学的視点を取り入れる事(看・連携)により、看護業務をより安全に効率性を向上させる能力を育む。具体的には、看護の現場で実際に活用されている、あるいは活用が期待される情報通信技術の実施例を通して学ぶ。					看護ケア、情報通信技術 センシング技術、生活支援				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標									
A 知識・理解力			情報通信技術の動向を理解する						
B 専門的技術			看護分野における情報通信技術の利活用を提案できる						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	60 %	発表：	20 %	実技試験：	0 %	その他：	20 %
特記事項： 8回の内6回の授業は工学の専門家をゲストに招いて授業を実施する。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 各授業でレポート課題を課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 各授業の担当教員ごとに評価した結果を、取り纏め教員から、学生に対し個別にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①看護学を工学的視点から学ぶことの意義				看工連携の意義について自らの意見を整理する	120分				
②情報通信技術の動向と生活支援への利活用(一部ゲストスピーカー含む1) 岩本				IoTやICTの情報通信技術の動向と社会支援、生活支援への応用例	240分				
③医療事故防止におけるセンサ技術の利用(一部ゲストスピーカー含む2) 鳥山				加速度センサを活用した看護師の指差呼称の検知・評価について	240分				
④安全で安心な生活を支えるセンシング技術(一部ゲストスピーカー含む3) 鳥山				ドップラーセンサ、加重センサ等を活用した独居高齢者の見守りシステム	240分				
⑤生活支援と生体情報(ゲストスピーカー4)(一部ゲストスピーカー含む4) 唐山				生活支援に役立つ生体情報の計測や解析、応用事例	240分				
⑥認知症レベル評価へのセンシング技術の応用(一部ゲストスピーカー含む5) 佐保				ドップラーレーダによる歩行状態の計測および認知症レベルの評価	240分				
⑦リハビリテーションに活用できるロボット技術(一部ゲストスピーカー含む6) 小柳				精神や身体機能のハビリ、その補助をするロボット技術等の事例研究	240分				
⑧情報通信技術を活用した看護ケアに関するグループワーク				これまで学んだICT活用を基に、今後の活用法について考える	240分				
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト： 指定テキストは有りません。適宜資料を配布します。				その他参考文献など：					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：									

看護学専攻1\_6

科目名: チームケア論			担当教員 氏名: 山元 恵子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門性強化科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護管理者としての経験を踏まえ、具体的な内容を提示しながら教授する。			
授業科目の概要:					キーワード	
看護の様々な臨地の実践現場において、医療チーム内および看護チーム内の有効な連携を実現させるために、チームケアを効果的に実践できるようになるための基礎を強化し、チームケアの概念と必要性について理解を深め、効果的なチームケアの進め方および看護チームの在り方についてグループで検討し、報告する。					チーム医療、チームケア、多職種連携	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標						
A 知識・理解力			チームケアを効果的に実践できるための基礎知識を身に付ける。			
C 論理的思考力			基礎知識を有効に活用して、問題解決のための論理的思考を展開できる。			
D 問題解決力			問題を認識し、必要な情報を収集・分析して、解決するための方法を見出せる。			
F チームワーク・リーダーシップ			問題解決に向けてグループリーダーとメンバーが有効に活動できる。			
H コミュニケーション力			問題解決に向けての有効な活動のために、グループ内で十分コミュニケーションをとることができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 20 %		実技試験: 0 %
						その他: 0 %
特記事項:						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループワークの発表後、レポート提出						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: グループワークの発表後に機会を設ける。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
① 臨床現場におけるチームケアの在り方について					【予習】シラバスの確認	【予習】60分
					【復習】関連資料の収集開始	【復習】60分
② 医療チームのメンバーとは					【予習】関連資料の収集	【予習】60分
					【復習】チームメンバーについて	【復習】60分
③ 看護職チーム内における連携①					【復習】看護チームの捉え方	【復習】120分
④ 看護職チーム内における連携②: グループワーク					【予習】関連資料の収集	【予習】120分
⑤ 看護職チーム内における連携②: グループワーク(発表)					【復習】他グループの発表内容について	【復習】120分
⑥ 医療チームにおける多職種連携①					【予習】関連資料の収集	【予習】60分
					【復習】多職種連携について	【復習】60分
⑦ 医療チームにおける多職種連携②: グループワークⅠ					【予習】関連資料の収集	【予習】120分
⑧ 医療チームにおける多職種連携③: グループワークⅠ(発表)					【復習】他グループの発表内容について	【復習】120分
⑨ 医療チームにおける多職種連携④: グループワークⅡ					【予習】関連資料の収集	【予習】60分
					【復習】多職種連携について	【復習】60分
⑩ 医療チームにおける多職種連携⑤: グループワークⅡ(発表)					【復習】他グループの発表内容について	【復習】120分
⑪ 医療チームにおける多職種連携⑥: グループワークⅢ					【予習】関連資料の収集	【予習】60分
					【復習】多職種連携について	【復習】60分
⑫ 医療チームにおける多職種連携⑦: グループワークⅢ(発表)					【復習】他グループの発表内容について	【復習】120分
⑬ 医療チーム内の有効な多職種連携					【復習】有効な多職種連携について	【復習】120分
⑭ 医療チーム内の有効な多職種連携: 看護職の果たすべき役割					【予習】関連資料の収集	【予習】60分
					【復習】看護職の役割	【復習】60分
⑮ まとめ(今後の課題)					【復習】今後の課題についてのレポート作成	【復習】120分
使用テキスト:					その他参考文献など: チーム医療に関する書籍や文献を幅広く活用してほしい	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 臨床経験のある学生については、可能な範囲で臨床現場での具体的な事例をグループワークを展開するきっかけとして提供してほしい。そこから討論を深めるのも一つの方法として活用してほしい。						

看護学専攻シラバス11

科目名:	臨床実践研修			担当教員 氏名	炭谷 靖子 他				
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
10	1年次 通年	専門性強化科目	実習	必修					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 病院、地域、在宅での実務経験と看護管理の経験を踏まえ、学生の臨地での経験に対して実践状況を理解したうえで助言を行う。また、実践と理論との対話の中での深い学びへと進むための支援を行う。									
授業科目の概要: 複数教員担当方式					キーワード				
看護現場で生起している現象を看護師としての資格をもとにリアルな体験を積み、現場で起こっている現象を記述し、言語化する。看護の領域ごとに分類し、具象から表象レベルに整理する。また、相互の学習内容を共有化し、学習を広げる。また、看護実践研究の動機にいかすことができる。(外来、病棟、訪問看護等多様な現場での体験をもとに行う) ・本科目では、共同担当によるゼミ形式とする。 ・各目の実践を重ねる場所別に事実を領域として分類し、考察していく。 ・看護領域の参考図書、研究論文を参照しながら、事実を言語化する。 ・学生が、2つの課題(事例・管理等)の発表を行い、相互に意見交換し、内容を深める。					問題解決思考 専門職 意志決定 看護の独自性 看護理論 ケア				
学習教育目標									
A 知識・理解力	実践を言語化し、看護実践を理論的に批判し、自己の看護を確認する。そのためのアセスメント・診断を知識と整合性をもたせることで科学的に証明する能力を養う。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個性性を支えるための正確な知識・技術を修得できる。								
B 専門的技術	看護過程の展開の技術が修得できる。								
C 論理的思考力	科学的・分析的態度を身につけることができる。								
F チームワーク・リーダーシップ	演習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、発言力、傾聴力、調整力、マネジメント力をもつことができる。								
G 倫理観	看護実践における倫理的感受性を高め、対象への倫理的意志決定ができる能力を高める。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間発表会、最終発表会で各学生の発表内容をもとに、広く看護の全体像を学ぶ。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 形成的評価を、週に1回に学内で教員とともにを行い、次週の学習活動につなぐ。									
課題: ①実習日誌の提出(50日分)と振り返り    ②2事例の事例報告を行う(レポート&発表)    ③臨床実践研究の課題抽出(テーマ設定)									
授 業 計 画 (学 内)				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① オリエンテーション 看護実践の評価と看護過程 学習計画(2事例の看護実践評価)				【予習】テキスト1の看護過程を要約する 【復習】講義の振り返り 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分				
②1例目 実践実習(アセスメント・診断・計画、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
③実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
④実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑤実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑥実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑦実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑧カンファレンス 意見交換				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑨2例目 実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑩実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑪実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑫実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑬実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑭実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑮発表会、意見交換				【復習】課題レポート作成	【予習】120分				
使用テキスト: ①基本から学ぶ看護過程と看護診断 ロザリンダ・アルファロ・ルフィーヴァ(著)、本郷 久美子(翻訳) 医学書院 ②系統看護学講座-統合分野 1 看護管理、上泉和子 共著、医学書院				その他参考文献など: 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 黒田裕子 学研 その他 看護理論					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 今までの実践を振り返り、事例課題を作成し、グループで意見交換し、看護に対するリサーチクエスト、文献検索、結果へのアセスメント、考察、まとめの一連の過程を理解していく。また、目標設定等計画的に進めていく力をもって学習活動を行ってほしい。									

看護学専攻1-12

科目名: 看護実践研究				担当教員 氏名: 長谷川雅美 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
5	1年次 通年	専門性強化科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 地域看護、病院看護等の実務経験と看護管理の経験を踏まえ、学生の臨地での経験に対して実践状況を理解したうえで助言を行う。また、実践と理論との対話の中でより深い学びへと進むための支援を行う。					
授業科目の概要:複数教員担当方式				キーワード	
<p>○看護師として現場での活動を職能として蓄積し、発展し続ける基盤を強化するために、インターンシップにおける日々の看護活動を取り上げ研究に繋げることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業では、共同担当によるゼミ形式で授業を進める。</li> <li>・学生自身が内容を深めたい臨地での事象や活動を取り上げ、その事象や活動の意味と意義を確認し、今後の発展に向けた可能性を提言する。</li> <li>・学生が取り上げた内容により担当教員を決め、担当教員の指導を受けて個々に授業をすすめる。</li> <li>・報告会では、報告内容について発展的に意見交換を行う。</li> </ul>				看護活動 業務改善	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力		取り上げた活動や事象(テーマ)について事実をわかりやすく説明できる。			
C 論理的思考力		テーマについてその意味や意義をわかりやすく説明できる。			
D 問題解決力		テーマについて今後の発展に向けた課題を見出し説明できる。			
G 倫理観		テーマについての課題解決に向けて倫理的配慮ができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	20 %
実技試験:	%	その他:	%		
特記事項:					
アクティブラーニング要素: <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">課題解決型学習</span> ディスカッション、ディベート    グループワーク <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実習、フィールドワーク</span>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
① オリエンテーション 受業の進め方について【担当教員全員】			【予習】シラバスの確認 【復習】詳細の確認	【予習】60分 【復習】600分	
② 内容を深めたいテーマを選定し、担当教員を決定する【担当教員全員】			【予習】取り上げる活動や事象(テーマ)についてまとめる 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】60分	
③~④ テーマに関する文献検討を行い研究目的を明確にする【担当教員全員】			【予習】文献リストの作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】120分	
⑤~⑫ 研究計画書、研究倫理書類を作成する【担当教員全員】			【予習】計画書の作成 倫理審査書類の作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
⑬~⑳ 研究計画に従い実施する【担当教員全員】			【予習】研究の実施 【復習】面談内容のまとめ	【予習】1200分 【復習】600分	
㉑~㉚ 論文執筆基準に従い研究論文を作成する【担当教員全員】			【予習】論文の作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
㉓~㉔ 研究成果を報告会で発表する【担当教員全員】			【予習】発表準備 【復習】発表後のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
使用テキスト:担当教員と相談してください。 出身校等で使用したものを持参してください。			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					